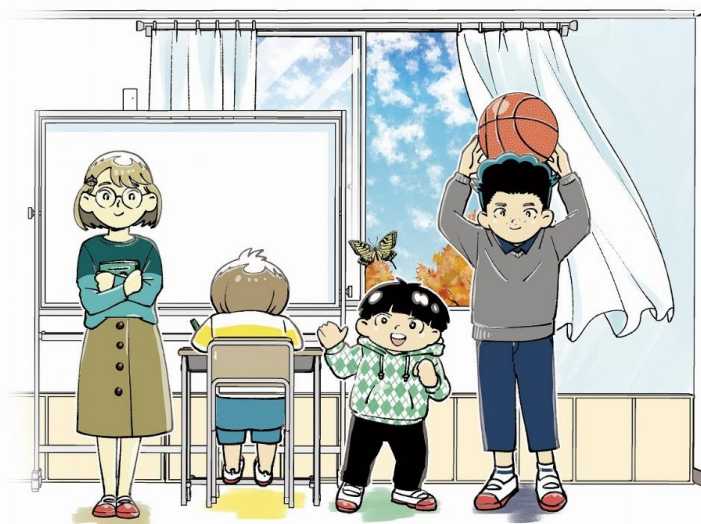


第2回 特別支援教育 職員研修会

誰一人取り残さず輝かせる教育の実現に向けて

(特別支援教育のユニバーサルデザイン化)



日時 令和7年 12月 16日 (火)

15:30~16:50



新潟県立出雲崎高等学校

(解説)

・現在の日本には、児童生徒の自己肯定感の低さ、不登校、いじめ、校内暴力、希死念慮や自殺等多くの課題があり、この深刻な状況をどの様に受け止め、対応するとよいのか、真剣に向き合う必要に迫られています。

・そのような中、本研修会では、本校のスクール・ポリシーで示している姿（すなわち「精神的自立」「社会的自立」「経済的自立」「ゆたかな情操」「希望への輝き」）にどの様にすれば本校生徒をより確実に導けるのか、皆さんと共に考え、その達成に向かう具体的な教育手法を一緒に学んでいきたいと思います。

・そして、それらの教育手法を令和8年度から本格的に導入することで、生徒一人一人が伸びて輝き、成果を出していける様に、本年度中に丁寧な予測と、それに基づく準備を確実に進めたいと思います。

・また、本校の教育モデルを広く社会に周知し、より多くの人々に元気と勇気を与えていければ幸いです。

・なお、本研修内容に関する責任はすべて本校にありますので、ご意見やご質問等ありましたら、本校までお寄せいただければ幸いです。

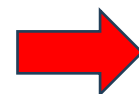
宜しくお願い致します。

1 目的:特別支援教育に必要なことを真に理解する

**入学
(現実)**



**教育
(CP)**



**卒業
(GP)**

- ・ 多様な生徒
- ・ 未学習状態

→コロナ禍の影響
不登校の影響

その他

- ・ 誤学習状態

→バイアス
(認知の偏り)

- ① 安全・安心
- ② 自己存在感
- ③ 学びの価値
- ④ PDCAサイクル
- ⑤ 教育資源活用
- ⑥ 自己決定

生徒一人一人の

- ・ 精神的な自立
- ・ 社会的な自立
- ・ 経済的な自立
- ・ 希望への輝き
- ・ ゆたかな情操

の実現を果たす

（解説）

・本校の生徒は、先生方の教育実践をかなり好意的に受け入れている。そのことは、本校生徒のアセスメントに用いている「アセス・B-SAFE」の結果からも明らかである。

・だが、それにも関わらず、生徒達の気持ちは「先生方は自分たちのために良い取組をしてくれているとは思いうけれど、私たちは自身はそれを受けて『ルールを守ろう！』『みんなで思いやりを持って関わり合おう！』という集団にはなり切れていない」と感じていることも「アセス・B-SAFE」の結果から明らかになっている。

・本校のこの現状を見ると、あたかも軟弱地盤の上に「教会」を建てようと、教師も生徒も努力しているが、地盤の弱さもあって、手をかける割には「教会が建つ」イメージが弱いようにも思える。そうだとしたならば、まず“やるべきこと”は、時間をかけて、生徒自身に自分自身の地盤調査と地盤改良を行うように指導・支援し、それに取り組ませながら「教会の建て方を伝える」という手順を踏む方が、しっかりとした土台の上に、少しの地震でもビクともしない「教会」が建つのではないかと考えた。

・よって、本校では「総合的な探究の時間」「自己探究」の授業で地盤調査、地盤改良、教会の建て方をセットで指導し、その時間で生徒が得た学びや気づきを実際の「より良い行動」として取り組み、その行動を習慣化する中で、自己変容へと向かうことが生徒を育てる上で大切と考えた。⁴

ややもすれば、現代の教育は、軟弱地盤の上に「レンガ」を積む作業をさせている感じになっているかも……

軟弱地盤

レンガ
積み

教会



地盤調査

地盤改良

建設作業

- 現場監督（レンガ積み指導者）＝教師
- レンガ積み職人＝生徒
- レンガ積み＝各教科の授業
- 教会を立てる＝目指す姿になる（GP）
- **軟弱地盤＝生徒の内面（心）等の弱さ**

「教会」を立派に立てるには？

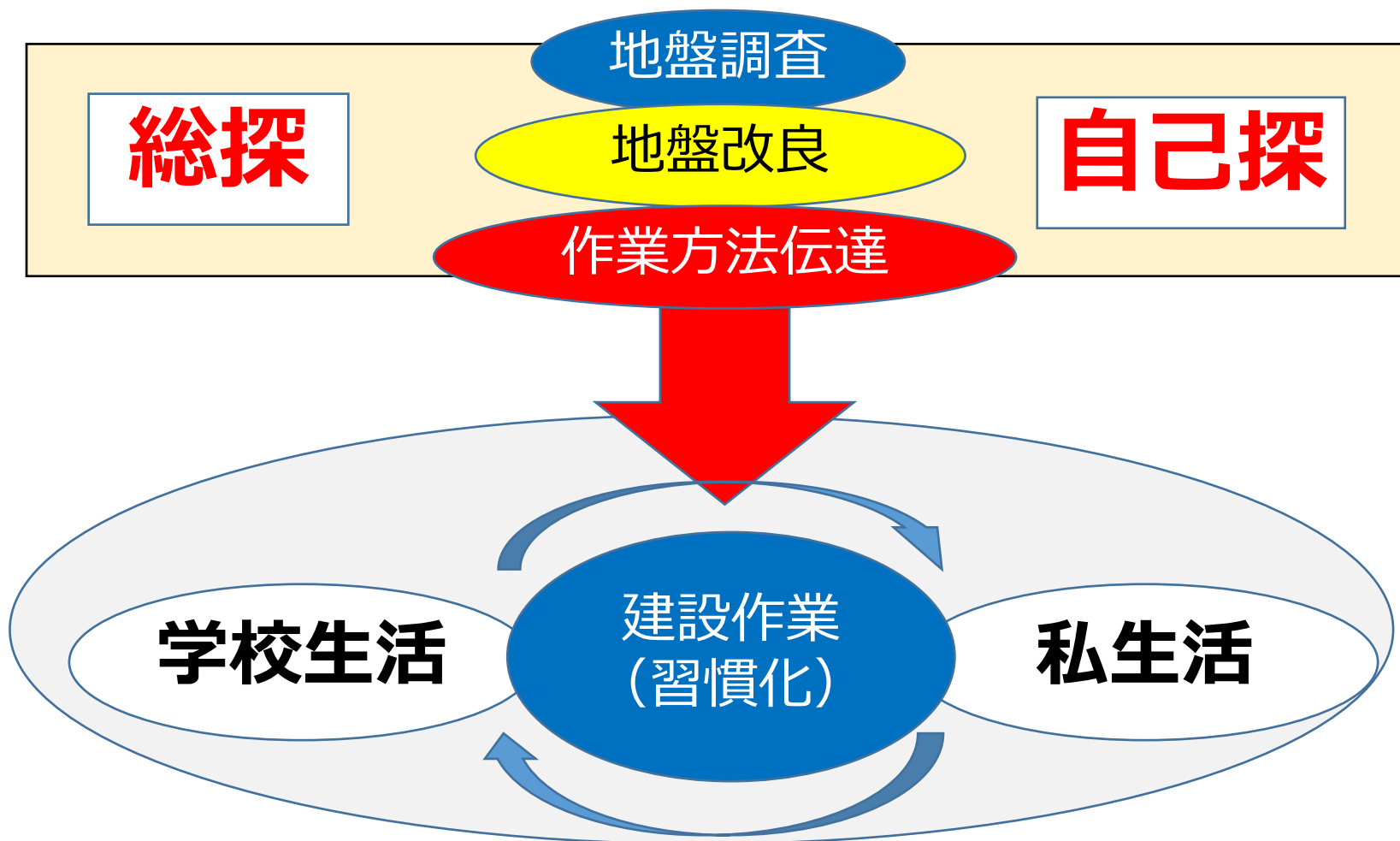
特別指導の生徒に取り組んで来たことを
ユニバーサルデザイン化して、全体に広げる。

- 地盤調査＝生徒自身の自己分析・自己理解
- 地盤改良＝生徒自身の毎日の心の育成（習慣化）
- 建築作業＝「総探」「自己探」の学びの活用

※それによりプロアクティブな生徒指導を実現する！

2 軟弱地盤に「教会」を建てる具体的イメージ

本校で言えば、「総探」「自己探」で、生徒自身が自己分析、自己理解、社会理解を図り、そこから“自己を社会化させ、より良く生きる方法”に気づき、その方法を日常の中で継続的に取り組み、習慣化し、自己変容を図るようにさせる。



認知療法の理論(ABC理論)で組み立てる



生きていく中で
いろいろな出来
事に遭遇するの
は当たり前

Bにはその人の考
え方のクセがあ
る。(エゴグラ
ムの形との関連
性が強い)

同じAであっても
Bのクセにより、
Cの現れ方に個人
差が出てします

B(考え方)を“より社会性のあるもの”に変えていく教育が、生徒の人生をよりよくするために必要。その教育がプロアクティブな生徒指導にもなる。

（解説）

- ・その「軟弱地盤の調査方法（地盤調査）」を考える上で必要な理論として心理学の認知療法の理論であるABC理論をベースに組み立ててみた。
- ・ABC理論とは、ある出来事（A）が自分に降りかかった際に、それをどの様を感じるか（C）は人それぞれであり、仮に同じ出来事であっても、人の考え方のクセ（B）によって違う受け止め方（C）をするものだということを表している。
- ・そうであれば、生きていく際にいろいろな出来事（A）に遭遇するのはある意味“当たり前”のことでもあるので、長い将来を考えれば、本校の生徒であるうちに、出来事の受け止め方（考え方・信念：B）をより合理的で社会性のあるものに今のうちに变えておく教育こそが、これからの予測困難な時代を生きていく生徒にはとても大切だと考えました。
- ・では、いったいどの様にすれば生徒自ら“出来事の受け止め方（考え方・信念：B）”を主体的により良いものへと修正することができるのか？、そして、自分の人生に当事者意識を持って自己指導能力を発揮していけるようになるのか？その教育手法について、本研修では理解を深めていきたいと思う。